

令和 5 年 5 月 7 日

令和 4 年度学校関係者評価報告書(要旨)

学校法人尽誠学園

香川看護専門学校

この報告書は、「香川看護専門学校の目標設定や達成に向けた取り組みを、学校運営の在り方や教育活動について客観的視点から評価し、改善の方向を提示することで看護師養成所としての教育水準の維持向上と学校運営の活性化を図る。」ことを目的に実施された学校関係者評価委員会による評価結果の報告である。

学校長 横山 重子

学校関係者評価委員長 清水 裕子

1. 学校関係者評価の概要

1) 学校関係者評価の目的

香川看護専門学校の教育目標とその達成に向けた取り組みについて、教育組織としての運営のあり方や教育活動の実施状況を客観的に評価し、改善の方向を提示し、看護師養成所としての教育水準の維持、向上および学校運営の活性化を図ることを目的とする。

2) 令和 4 年度学校関係者評価委員会委員(敬称略・順不同)

委員長 清水 裕子 (大学教授)
委員 松下 文夫 (非常勤講師)
委員 三谷 尚子 (実習施設)
委員 志賀 紀之 (前高等学校長)
委員 高儀 雅俊 (短期大学教授)
欠席者: 委員 福屋 純子 (実習施設)

3) 事務局

校長 横山 重子
副校長 大柳 薫 (書記)
総務部長 増田 孝一郎
教務部長 谷川 香代
第1看護学科長 後藤 佳代子
第2看護学科長 高橋 由恵

4) 学校評価委員会

谷川教務部長の進行により、令和 5 年 2 月 8 日(水曜日)にオンラインにて開催された。

5) 評価対象 令和 3 年度 IV. 教授・学習・評価課程

6) 学校評価の実施方法

- (1) 予め香川看護専門学校は評価項目にそって、「学習・評価過程」の自己点検を行った。
- (2) 各評価委員は、公開された自己評価資料を点検し、1月31日までに評価意見を香川看護専門学校に送付した。
- (3) 各評価委員の意見をもとに令和5年2月8日、オンライン会議で意見交換を実施した。
- (4) 意見交換の内容を事務局でとりまとめ、委員長に報告した。
- (5) 委員長が学校評価報告書案をまとめた。
- (6) 事務局より各委員に学校評価報告書案を送付し修正等の意見を集約した。
- (7) 委員長が報告書を令和5年3月24日に学校に提出した。

2. 評価委員会外部評価者意見

自己評価報告書に基づき、1)自己点検に関する質疑応答、2)評価委員コメントに関する説明、3)評価項目の妥当性について協議した。

2. 協議結果

1) 評価委員コメント

委員からのコメントは、教授計画つまり授業計画についての意見が多く、中でも授業の方法が多かった。授業方法については iPad も含めて具体的な方法が委員から提案され、学生の IT を活用したスキル開発についての意見があった。政府が話題にしている生涯学習でのリスクニングについて、コロナ禍の教育においても、新しいリスクニングを点検する必要がある。指導方法はグループ化、集団教育や個別教育などが実際に使われており、自己評価報告書の中には小さいグループ法とあるが、教育学にいうスモールグループメソッドを活用していることを確認した。4人程度のメンバーによるスモールグループメソッドは、PBL、問題思考型、チーム基盤型などの教育方法で用いられる。また、学生相互に学びあう方法も提案された。

2) 新評価項目の提案

教育活動の点検を行う過程において、自己点検項目の提案が次のとおり示された。

- ① 授業科目は、看護師養成の指定規則および看護学の教育内容として妥当である。
- ② 授業は、教育課程の卒業時の到達目標に沿って、学科の授業内容としてシラバスに明示された。
- ③-1. シラバスは、学習目標と学習内容の整合性が担保されている。
- ③-2. シラバスは、学習者が自己学習を行うために、学習内容ごとに自己学習への助言が記述されている。
- ④ 科目間において、授業内容の重複や関連、及び発展性が明確である。
- ⑤ 科目のシラバスは、適切に記述された。
- ⑥ シラバスには、授業展開の進度、および学習方法を明示した。
- ⑦ (就学支援) 課外での学生の学習が深化・発展するための支援を実施した。
- ⑧ 効果的な教育活動のために、教員間の協力体制を明確にしている。
- ⑨ 学生による「授業評価」を実施した。
- ⑩-1 (成績評価) 学習成果の成績評価は妥当であり、これに基づき、シラバスの修正を適切に行った。
- ⑩-2 学習目標の到達度評価を実施した。
- ⑪-1 (単位認定) 学生に単位認定基準を明示した。
- ⑫-1 (教育管理) シラバスと授業は、学校全体としての一貫性がある。

⑫-2(就学支援)シラバス提示や学習指導は、学生の学習への動機づけとなった。

3. 学校評価を終えての委員長コメント

全体として感じたことは先生方の報告書は非常に誠実に行われていることである。報告書は、ありのままが書かれていて、毎年少しでも良くしようと努力されていること、努力する過程の中でまだためらいがあること、一歩ずつ歩を進めているという過程であることがよく理解できた。